

## 南部リーグの趣旨について

南部リーグ会長 森猶隆

### 1. 現状

加盟チーム 男子18校  
女子16校 計34校  
となり、問題点も挙げられるようになった。

#### 問題点

- ①加盟数が増え、試合会場の確保、連絡の不徹底。
- ②南部リーグ創設時の趣旨の不徹底。

これらが事務局の負担を大きくしていると考えられる。

そこで、今一度原点に戻り、「南部リーグ」の意義をとらえ直し、活動の活性化を図っていきたい。

### 2. 南部リーグ創設時の趣旨

南部リーグ（正式名称；長崎南部指導者連合）は、平成4年に創立。

当時、蚊焼小ミニバス指導者であった濱崎輝政氏（南部リーグ初代会長）の掛け声の下、以下のチームの指導者が集まった。

男子…為石、蚊焼、土井首、小ヶ倉、深堀、仁田

女子…晴海台、香焼、深堀、土井首、戸町、小ヶ倉、南大浦、仁田

創設時の趣旨は以下の通りである。

長崎半島南部地区のミニバスケットボールクラブのチーム力のレベルアップを図る。

当時は、長崎南部地区のチーム力が低く、チーム力アップを図るためには、「遠征」をするしかなかった。「遠征」に出かけるチームはその分「力」は上がっていた反面、各チームとも、選手、保護者に負担をかける場合があったのが現状であった。

そこで、濱崎氏の提唱として、

- ①「強いチーム」を含め、地元チーム同士での技術交流を通してレベルアップを図ることで、「近場での練習試合」を増やす。そのために、年4回の交流大会を実施していく。
- ②自チームのレベルアップを図るためには、他チーム、特に南部地区全体がレベルアップしなければならない。そのためには、指導者同士のつながりを密にし、バスケットに対する考え方の交流を図る。そこで、大会後の懇親会を設定し、指導者同士の交流を図っていく。

このような経緯のもとで発足した南部リーグである。

第1回大会後の懇親会は三和町為石で開かれた。ほとんどの指導者が参加した。ただ、三和町では参加が難しいとの指導者の声もあり、第2回大会からは懇親会は長崎市銅座付近で行うようになった。

### 3. 南部リーグの拡大

発足当時は、長崎半島南部のチームに限られていたのにも関わらず、現在なぜ広範囲のチームが加盟しているのか、疑問に思われる方もおられると思う。

そこで、なぜ拡大していったかを説明したい。

#### ①趣旨に賛同し、交流を深めていきたいとの申し出があったチーム

例) 愛宕小, 上長崎小等

#### ②在籍指導者の異動に伴ったチームの参加

例) 山里小, 喜々津東小, 古賀小等

#### ③在籍指導者と交流が深く、趣旨に賛同したチーム

例) 西城山小, 小江原小等

以上の3点から、現状の加盟チーム数となっている。ただ、これまでには、たとえ他地区から参加できたとしても、指導者の異動によって脱退をやむを得なかったチームもある。

### 4. 南部リーグの再興

このような形で創立、継続してきた南部リーグであるが、創立17年目を迎えようとした今現在、加盟数の拡大に伴い、多々課題が表面化し、事務局に負担をかけている。現状では、負担のあまり、これから事務局をやろうとする者は出てこないのではないかと考える。若い指導者を、これから増やしていくためにも、次世代の指導者を育てていく意味からも、このような「負担」を減らしていく必要があると考える。

事務局を務める方がいて、初めて「交流大会」が実施できるのではないかと考える。

そこで、再興の手順として、次の手順を考えた。

#### ①現在の加盟チームすべてに、「南部リーグ創設時の趣旨」に賛同するかどうかを再度問う。

・交流大会に参加し、加盟チームのレベルアップを図る。

※できる限り南部交流大会を優先する。これは、南部交流大会は、年間計画に沿って実施しているので、「遠征」を通して培ってきた技術を、他の南部リーグ加盟チームにも広げてほしいという意味である。

・懇親会に参加し、指導者同士の交流を図る。

上記の2点を、来年度も継続できるかどうかを再度考慮し、加盟の態度を表明する。

#### ②4月の総会は、賛同できるチームのみが参加する。